

外部評価の対象課題概要

(評価対象課題概要様式)

横-03	普及指導課題	横浜市産植木の安定生産に向けた取組み支援			取組期間			
	実施方針「課題」	地域農業の振興を図るための取組みに対する支援			自	令和4年度		
			担当専門チーム	花き	至	令和6年度		
部所名	農業技術センター横浜川崎地区事務所							
活動対象	JA横浜植木部生産部会(27名)							
連携機関	JA横浜							
1 課題	横浜市では、地域の農業振興を図るため農産物の地産地消の取り組みを進めており、植木もその対象作物として位置づけられている。植木は、生育期間が長期にわたるため、需要の変化への即応が困難な作物であるが、近年、需要の多様化が進んでいることから、多品目少量生産となっている。当所では、令和3年度までJA横浜植木部生産部会の活動を支援し、横浜産推奨樹種として30樹種を選定した。今後は、2027年に開催される横浜国際園芸博覧会や横浜市緑化事業での有効利用を図るため、推奨樹種の安定生産に向けて継続的に支援する必要がある。							
2 目的	令和3年度に選定した横浜産推奨樹種の導入・定着を促進するため、樹種ごとの規格と品質の統一を図るとともに、県育成品種を含めた横浜産推奨樹種の安定生産を支援し、2027年に開催される横浜国際園芸博覧会や横浜市緑化事業での利用を促進する。			4 活動内容(主な普及指導手法)				
3 成果目標	推奨樹種の横浜市等受注件数 0件(令和3年度) → 20件(令和6年度)			横浜産推奨樹種の作付け支援 ・ 打ち合わせの開催 3回(R4) 2回(R5) ・ 巡回検討会 2回(R4) 4回(R5) ・ 個別巡回指導 27回(R4) 28回(R5) 規格・品質基準の作成支援 ・ 会議の開催 2回(R4) 0回(R5) 芽接ぎ講習会1回(R4) 切接ぎ講習会1回(R5)				
5 普及指導事項の年次目標・実績								
指導事項	評価項目(単位)	実施前	目標	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			実績	令和4	令和5	令和6		
横浜産推奨樹種の作付け支援	横浜産推奨樹種を新規に作付けする農家数(戸・延べ数)	7	目標	10	17	27		
			実績	13	17			
		達成度(%)	130%	100%				
	新たに増殖を実施する生産農家(戸・延べ数)	3	目標	4	5			
			実績	4	5			
		達成度(%)	100%	100%				
県育成品種(八剣枝垂れ等)を導入する生産農家数(戸・延べ数)	2	目標	4	8				
		実績	6	10				
	達成度(%)	200%	125%					
規格・品質基準の作成支援	規格・品質基準の作成樹種数	0	目標	30	30			
			実績	15	30			
		達成度(%)	50%	100%				
6 令和5年度末までの活動成果と評価								
<p>推奨樹種の作付けや増殖を実施する農家数は目標を達成した。また、県育成品種を導入する農家数も上方修正した目標を上回る実績を上げることができた。これは、部会員と一緒に推奨樹種や県育成品種を生産する園を巡回して県育成品種等の生産状況を調査したことにより、生産者の理解が進んだためと思われる。芽接ぎや切接ぎ講習会により生産者の基本技術の習得が進んだことや、増殖を導入するよう働きかけ、生産者に助言を行ったことにより、新たに増殖を実施する者が増えたと思われる。</p> <p>規格基準(樹高、株張りや幹の太さ等)については、「公共用緑化樹木等品質寸法規格基準(案)」に準じた形で作成を支援したことにより、JA横浜植木部生産部会が規格・品質基準を作成することができた。当所が、現地の生産情報を把握しながら原案を示すことにより、基準作成が進んだものと思われる。</p> <p>令和6年度人生記念樹事業の配布樹種(全11樹種)に、市内産推奨樹種の中から6樹種が選定された。</p>								
7 今後の課題と取組								
<p>課題全体としては概ね目標の達成が見込まれるが、令和6年度の計画では、さらに奨励樹種の新規作付け農家を増やす必要があり、目標の達成に向けて生産園の巡回指導や情報提供を通じて、県育成品種を含む奨励樹種生産に対する生産者の理解を醸成しながら導入を支援する。</p> <p>横浜市緑化事業等の受注は、基準に合う樹木の数量を把握していないと難しい。そこで、JA横浜植木部生産部会において作成した規格・品質基準を周知するとともに、基準を有効利用するため、推奨樹種の生産情報の集計を毎年度継続していくように、部会員の意識付けを行うことが必要と考えられる。</p>								

外部評価の対象課題概要

(評価対象課題概要様式)

足-02	普及指導課題	カンキツ産地の活性化に向けたレモンの生産振興支援			取組期間			
	実施方針「課題」	地域農業の振興を図るための取組みに対する支援			自	令和4年度		
				至	令和8年度			
部所名	農業技術センター足柄地区事務所	担当専門チーム	果樹班3名					
活動対象	新植5年以内のレモン新植者							
連携機関	JAかながわ西湘							
1 課題	JAかながわ西湘(以下「JA」)では、カンキツ産地の活性化を図るため「湘南潮彩レモン」の商標登録や生果の他の流通販売形態として果汁等の一次加工品も加える方針を打ち出し、レモンの生産振興を図っている。それと同時に生産者への苗の半額助成を実施し、新規の生産者を加えた産地育成を行っている。今後、「湘南潮彩レモン」として安定した流通を実現するためには、新植したレモン苗が順調に成園化し、計画的な増産が図られることが求められている。							
2 目的	新植園の病虫害対策、施肥管理、生育初期の花芽抑制管理を指導して、早期成園化することで計画的な増産を進め、レモンの共販出荷量拡大による生産振興を図る。	4 活動内容(主な普及指導手法)						
3 成果目標	JAかながわ西湘取扱い量 31t(令和2年度産) → 53t(令和8年度)	(1) 新植樹安定結実管理技術の徹底 ・展示ほ 1ヶ所 ・講習会 12回 ・巡回指導 21回 ・打合せ 3回						
5 普及指導事項の年次目標・実績								
指導事項	評価項目(単位)	実施前	目標	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			実績	R4	R5	R6	R7	R8
新植樹安定結実管理技術の徹底	「早期成園化栽培マニュアル」を実施している新植者割合(%)	0	目標	40	60	70	80	80
			実績	30	52			
		達成度(%)	75%	87%				
〃	新植後5年以内に出荷できた新植者の割合(%)	0	目標			70	70	70
			実績					
		達成度(%)			0%	0%	0%	
6 令和5年度末までの活動成果と評価								
<p>○農業者向けのレモンの栽培技術資料がなかったため、当所で幼木の基本的な栽培管理方法をまとめた「早期成園化栽培マニュアル」を作成し、JAを通じて新植者を中心に配布した。また、マニュアルの栽培管理方法を補完するため、新植者を対象とした栽培管理講習会を夏期及び冬期の2回、管内6カ所(中井、山北、久野、成田、早川・湯河原)で開催し、幼木期の重要技術である骨格枝を伸ばすための病虫害防除や、芽かき等の実地指導を行ったことにより、マニュアルの実施率は52%となった。また、基礎データの収集とマニュアルに沿って栽培管理している園を、見本園として展示ほに設置した。</p> <p>○令和4年度に比べ実施率は向上したが目標に達していないため、指導方法の改善や工夫が必要である。</p>								
7 今後の課題と取組								
<p>○今後、早期成園化栽培マニュアルに示す「効果的な管理が如何に早期の収穫拡大に有効であるか」について、管理優良園の画像などを用いて生産者に明示していく。早期成園化による収穫開始までの年数短縮の経済的メリットを数値化する。これらの取組みによりマニュアルによる適切な栽培管理を促していく。</p> <p>○収穫が始まった農業者に対しては、新たに成木の栽培管理のマニュアルを作成し、技術指導を通じて安定した生産・出荷を支援していく。</p> <p>○収穫時期の判断やJAの集荷時期の参考として、令和5年度の調査研究により、時期別のレモンの果実調査を実施した。その結果に基づいた収穫期間を新植者やJAに情報提供することで、計画的な生産量の増加を図る。</p>								